

そして、もう一つ書くことがある。やはり得体の知れぬ頃、一人前、いや、いやレンビンの情からカワイがって下さった人々の名を記すべきであろう。すでにいまはなき、朝日新聞の福岡総局に長くおられたモリベ先生、これもいまなき岸田勉先生、すでに退職されている松坂藤太先生、現西日本新聞社社長青木秀先生、九州アンデパンダンの最初にお世話になった朝日の、いま名前を忘れて思い出せないが、あと東京本社に長くいられたそうだとタマリ先生、勿論、すでに定年になっておられると思うが、そして仲間うちとして俣野衛先生の名前もあげざるを得ないだろう。私と親しい仲間できえ、俣野先生と私の関係は知り得る筈もないのに、人間とは面白いもので知っているかのような文章を二、三読んだことがある。まあ知ったふりを書くのも、また面白いことではある。いつか、昔ならと思うのもまた一つの昔話しであろう。そして、ムダであるにもかかわらず、深野、谷口、田中、山下という諸先生の名を忘れるワケにはゆかぬ。そして、再び、ふくろダタキに逢う覚悟で、やはり九州派の諸先生の名前をあげる勇氣は、すでにない。クドウ、吉村先生という方にお逢いした先生、そして、吉野、風倉と田中という偉大な先生方、もう、なにを書いても始まらないのである。この段階でも、いまだに出版されるか、出版されないかが判っていないのである。本の中には、いかがわしいものが山積している。その中で、かくもいかがわしくなったのは刀根先生のエイキョウかも知れない。そして牢獄で裸になった時、ゼロ次元の加藤はじめユートク太子諸先生の広大な恩恵に浴したことを思い知らされたのである。そして、またしても、そして、何故か、今回も、いや、いつも、いつも本当のことは決して書いて、いや書けない体質の弱さを、またもさらけ出してしまったのだ。